新潟焼山の火山活動解説資料（令和８年 10 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図２－①②、図３－①②、図５）

噴煙活動は低調に経過しました。
山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 60ｍ以下で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図２－③～⑤、図３－③④、図４、図６）

新潟焼山周辺の地震活動は低調に経過しました。
火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図２－⑥⑦、図７）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。



図１　新潟焼山　山頂部の噴煙（橙色枠）の状況
（左：焼山温泉監視カメラ（10 月２日）、右：宇棚監視カメラ（10 月２日）による）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。
https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php
次回の火山活動解説資料（令和８年 11 月分）は令和８年 12 月８日に発表する予定です。
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。
https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokuji.html
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、京都大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、新潟県及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータを利用して作成しています。
資料の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『基盤地図情報』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50ｍメッシュ（標高）』を使用しています。

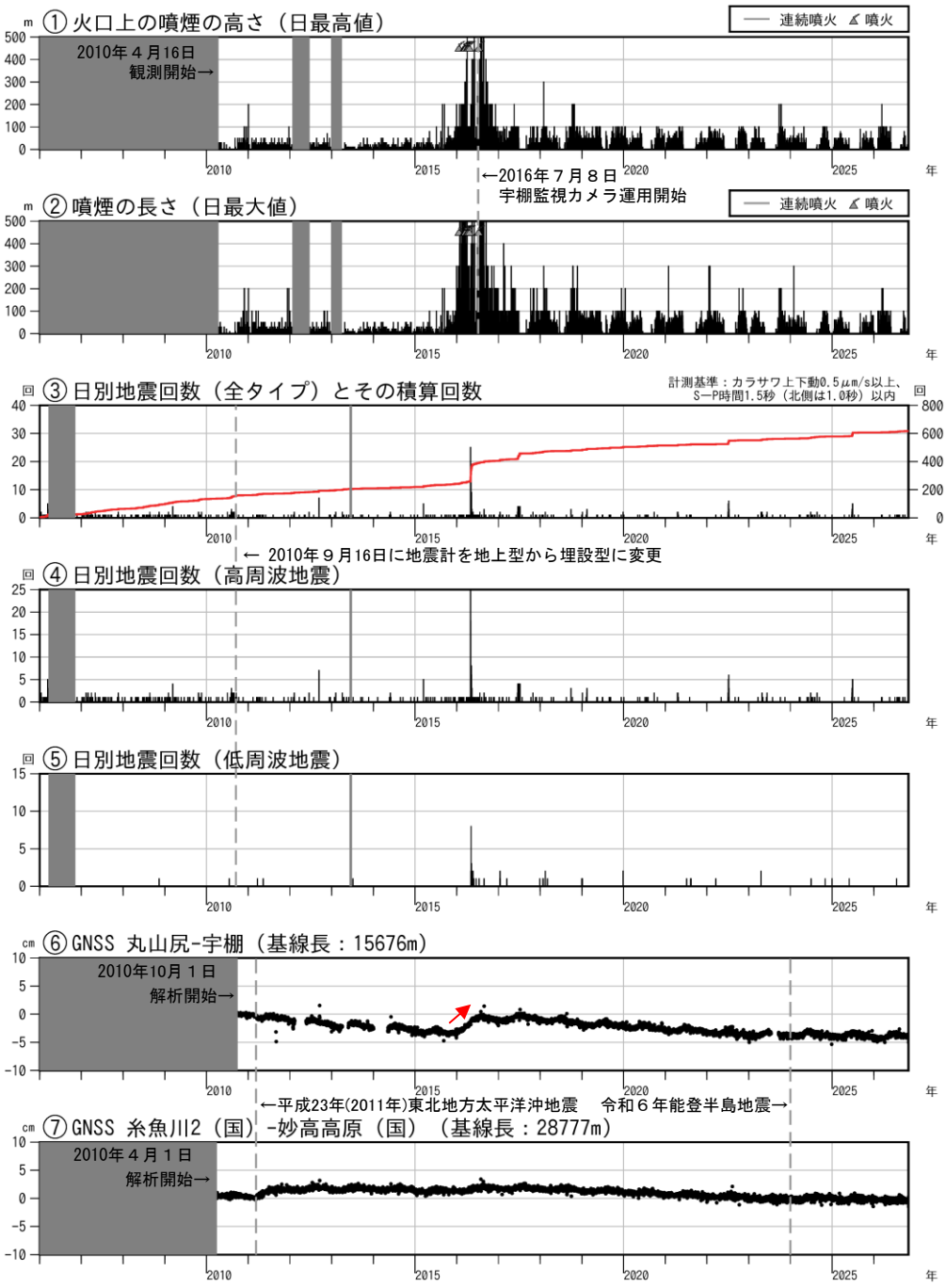


図２　新潟焼山　火山活動経過図（2006 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）

（国）：国土地理院。灰色部分は観測・解析開始以前または機器障害による欠測を示しています。

①・②：夏場は視界不良のため、山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②）のグラフも示しています（図５参照）。2016 年７月８日より宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016 年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

③：赤線は積算回数を示します。

④・⑤：地震の主な種類ごとの回数を掲載しています（図６参照）。

⑥・⑦：図７の GNSS 基線⑥・⑦に対応しています。空白部分は欠測を示します。平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震、令和６年能登半島地震によるステップを補正しています。

・地震活動は低調で、GNSS 連続観測でも火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。
・⑥の GNSS 基線では、2016 年１月頃から夏頃にかけて伸び（赤矢印）の変化がみられました。また、2016 年５月頃には火山性地震が増加し、低周波地震も発生しました（③～⑤）。

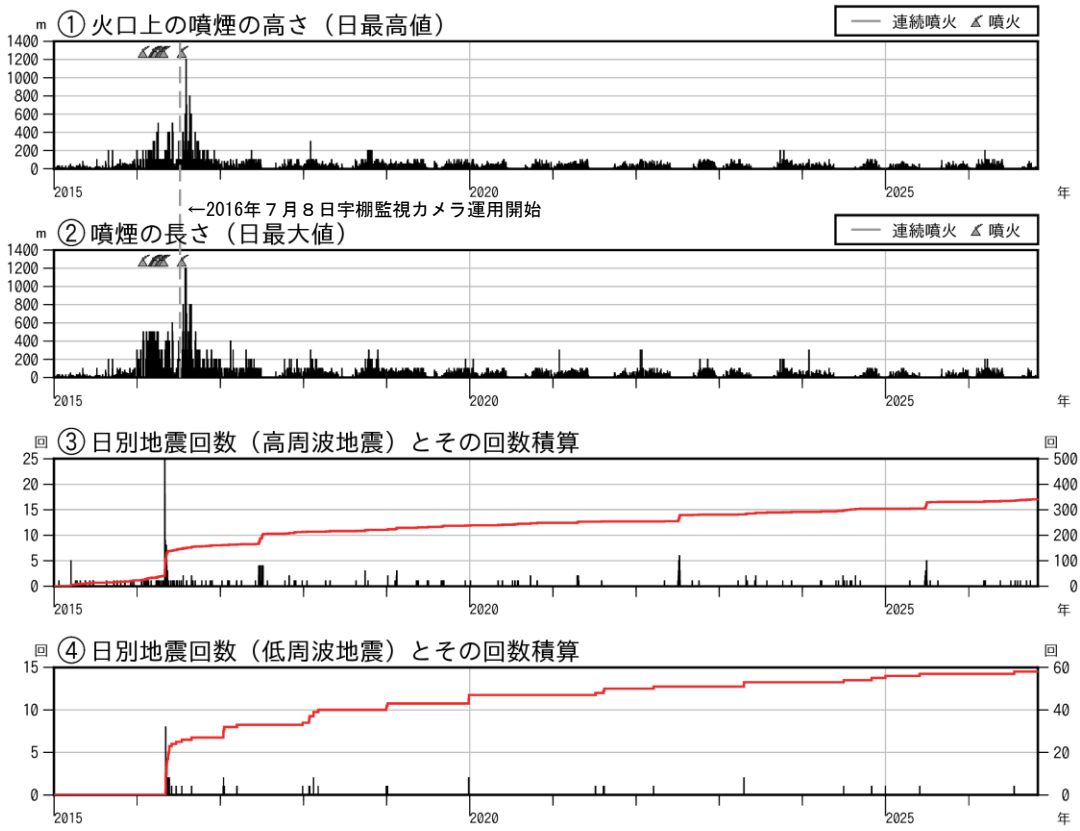


図３　新潟焼山　火山活動経過図（短期）（2015 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）

①・②：夏場は視界不良のため、山頂部が見えないことが多くなります。噴煙の高さ（①）は強い風の影響を受ける場合があるため、風の影響を受けにくい噴煙の長さ（②）のグラフも示しています（図５参照）。2016 年７月８日より宇棚監視カメラの運用を開始しました。それ以前とは観測値の統計に不連続があります。2016 年の噴火は柳澤ほか（2022）を参考にしています。

③・④：地震の主な種類ごとの回数を掲載しています（図６参照）。赤線は積算回数を示します。

・今期間、山頂部東側斜面の噴気孔からの噴煙は、火口縁上 60m以下で経過しました。
・新潟焼山周辺の地震活動は低調に経過しました。

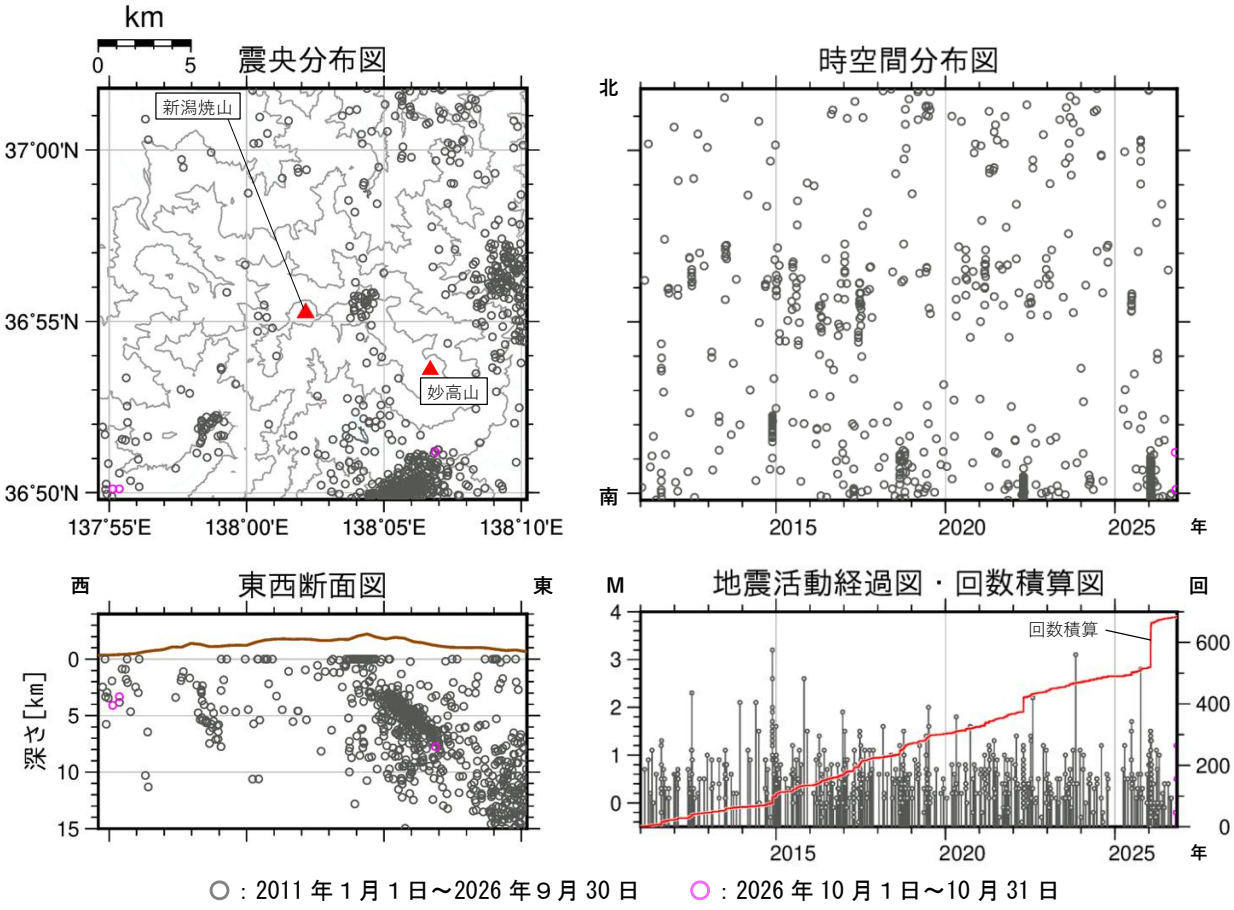


図４　新潟焼山　広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年１月１日～2026 年 10 月 31 日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。なお、2020 年９月以降については、地震観測点の標高を考慮する等、震源決定の手法を変更しています。
図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・新潟焼山周辺を震源とする地震活動は低調に経過しました。

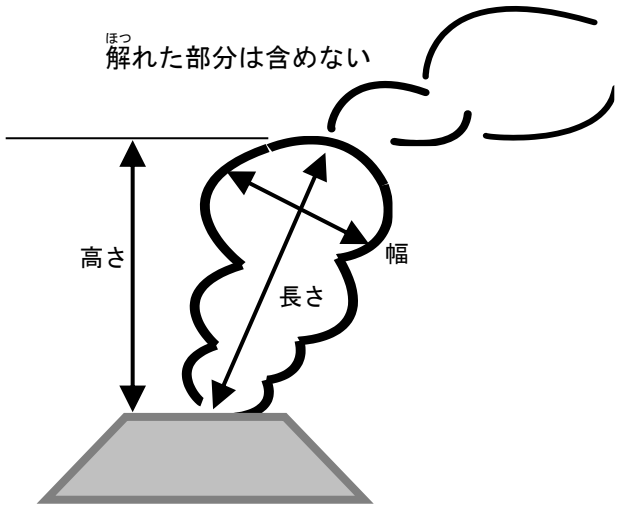


図５　噴煙の長さ、幅、高さの概念図

①高周波地震（Ａ型地震）　P，S 相が明瞭で卓越周波数は 10Hz 前後と高周波の地震

②低周波地震（ＢＬ型地震）　P，S 相が不明瞭で卓越周波数が約３Hz 以下の地震

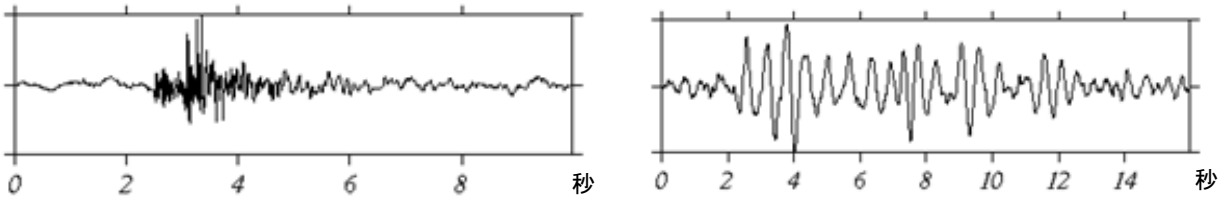
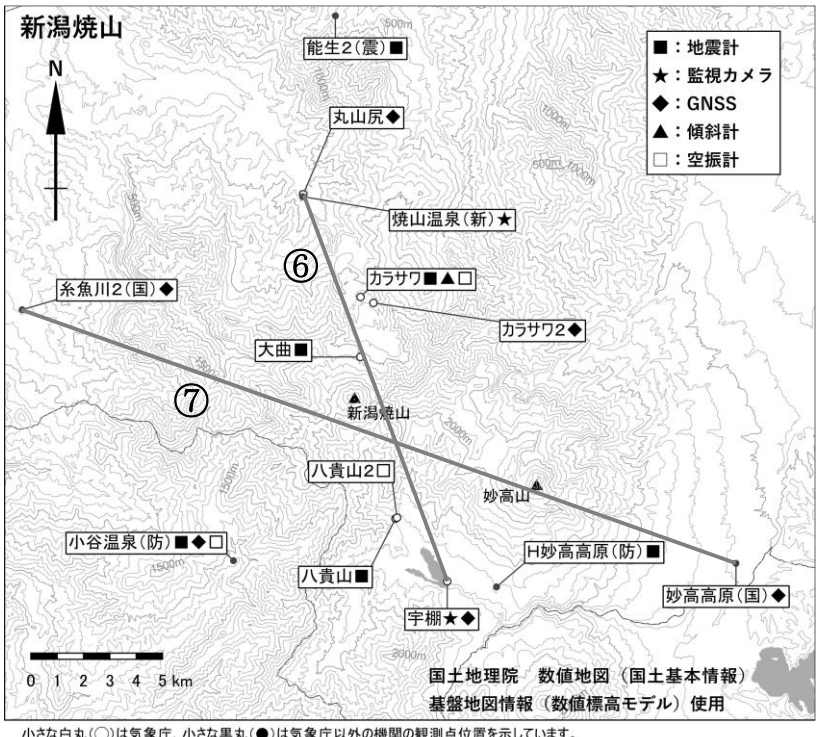


図６　新潟焼山　火山性地震の特徴と波形例



小さな白丸(◯)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
(国)：国土地理院、(防)：防災科学技術研究所、(震)：東京大学地震研究所、(新)：新潟県

図７　新潟焼山　観測点配置図

図中の GNSS 基線⑥・⑦は図２の⑥・⑦にそれぞれ対応しています。